

医師確保対策関連修学資金貸付事業費【拡充】

R6 174,987千円
債務負担行為設定額 144,000千円

事業の目指す姿

現状 → 目指す姿

- 本県の医師偏在指数は184.3であり、全国第46位の医師少数県。
- 医師少数県を抜け出すために2026年に必要な医師数は、2,972人。2036年に必要な医師数は、3,428人である。
- 2020年における県内の医療施設従事医師数は2,631人であり、目標達成に向けては、医師確保対策を更に加速させていくことが必要。

→ **一人でも多くの医師が県内に定着することで、医師少数県を脱することを目指す。**

現制度の課題

取組①は、県内での勤務を約して入学する定員枠（地域枠）62人に対し、現状の貸与者上限は34人となっている。そのため、希望する者の全てに修学資金を貸与することができていない。

（参考）R5貸与希望者 41人

取組②は、他県と比べ、以下の課題がある。

- （1）募集人数が少ない。
- （2）県外高等学校出身者が対象外。

目指す姿を実現するための取組

【現制度見直しの概要】

- 医師不足を解消するために、将来、**本県で医師として勤務することを希望する者に広く修学資金を貸与できるよう**、貸与者上限を増やす。（取組①及び②）
- あらゆる手段で医師を確保するため、将来、県内の病院等で医師として勤務しようとする県外大学医学科で修学する県外出身者についても対象とする。（取組②）

取組① 弘前大学医学部入学生特別対策事業（34人 → **62人**）132,675千円

（1）特別枠 5人

- 対象者：総合型選抜「青森県内枠」入学者
- 支援内容：6年間で 10,796,800円
- 返還免除要件：卒後、原則9年間、指定医療機関に医師として勤務する。※診療科、町村部勤務義務あり

→ 地域枠入学者**全員に貸与**できるように**拡充**

（2）一般枠 29人 → **57人（拡充）**

- 対象者：地域枠入学者、学士編入者のうち県内高校又は大学出身者
- 支援内容：6年間で 3,496,800円
- 返還免除要件：卒後、原則9年間、指定医療機関に医師として勤務する。

取組② 医師修学資金貸付金事業（3人 → **16人**）

42,312千円

（1）県内出身者の枠の**拡充**（3人 → **8人**）（2）県外高等学校出身者枠の**新設**（0人 → **8人**）

→ 潜在的**対象者全員に貸与**できるように**拡充**
県外出身の**希望者に貸与**できるように**新設**

（1）、（2）ともに

- 対象者：県外大学医学生
- 支援内容：6年間で 11,082,000円
- 返還免除要件：卒後、原則9年間、県内医療機関に医師として勤務する。

